

高齢社会をよくする 女性の会会報

No.79 1995年5月発行

高齢社会をよくする女性の会
東京都新宿区新宿2-9-1
第31宮庭マンション802号室
TEL.03-3356-3564
FAX.03-3355-6427
郵便振替 00100-0-79477

— 目 次 —

3月例会報告	1
追悼・田中寿美子さんへ	6
グループ活動報告	7
新グループ紹介	8
男・老いを語る③後藤和彦	9
本の自己紹介	10
リレー・エッセイ②芹沢茂登子	11
本の紹介、事務局だより	12



三月例会報告(一九九五年三月二七日) — 於・三井海上火災本社ビル一階大会議室

女の声が届くまで

— 地域の福祉を女が変える —

〈第一部〉

国会議員は語る

(出演者) 川橋幸子(参議院議員)

日下部禧代子(参議院議員)

清水澄子(参議院議員)

堂本暁子(参議院議員)

円より子(参議院議員)

司会 袖井孝子/樋口恵子

三月例会は、昨年の地域ゴールドプラン策定委員会女性比率調査のブックレット、『女性の参画でひらくゆたかな老い』

発刊記念と合わせて、四月の統一地方選挙を前にして、高齢化問題に地域自治体でできることと積極的に取り組む女性議員を党派を超えて増やそうという集会です。

満席の参加者を前にして、まず樋口代表から主旨説明がありました。

樋口恵子 四年前の統一地方選挙で、道府県・市区町村の女性議員が二三五人当選し、女性議員比率が史上初めて三パーセントを超えました。その女性議員全員の方々を対象に、当会では大がかりな「女性地方議員の介護体験と高齢化政策に関するアンケート」をいたしました。その結果、回答者の全員が高齢者福祉に関心

があること、また女性議員のなかで「現在介護中」と「過去に介護した」を合わせると半数を超え、これに「これから可能性あり」を加えると九割にのぼることもまた、大きな驚きでした。それは自らの介護体験と高齢化対策が密接な関係にあるということです。

以来、政治に女性が参画しなかつたら、決して豊かな高齢社会は実現しないという信念をますます高めております。

距離が遠い政治をどのようにして自分のものにし、自分達が主人公となって政治風土を変えていくか。その作戦会議を含めて、第1部ではお迎えした五人の国会議員の方のお話から、ご一緒に考え合いたいと思います。

*

次に、議員になって取り組んだこと、女性議員の存在意味についてのお話を、出演者の発言順に要約してご紹介します。
川橋幸子 政治の意志決定システムを国民の投票で決めていくようにしたい。そんな大きな望みを持っています。例えば財源が限られているのなら、福祉の部分

に優先的に配分していくといったことを、選挙で国民の選択にゆだねるようにしたい。

一人だけの政治改革は、回りを気にしないで発言することだと思っています。

日本の政治は言葉で変えられるようなものじゃない、とよく言われますが、大真面目に真剣に言う勇氣を失わないようにしたい。

日下部種代子 一九九〇年六月、当選して



清水澄子さん



堂本暁子さん



円より子さん

最初の代表質問で老人福祉法等の一部を改正する法律、つまり福祉関係八法の改正、施設サービス中心の厚生行政をもつと在宅サービス中心に大転換する改正を可能にしました。育児休業法が一九九一年五月可決成立しましたが、社労委員会の一人として、所得保障をどうするかを論議しました。

二年前にドイツの介護保険制度について勉強してきましたが、いかに老いていくかということについては、世界中が国境を超えて知恵を出し合う時代がきています。福祉をきちんとするためには、中央集権では実現不可能です。地方分権法案をさらに充実させたいと思っています。

- 清水澄子 ①石垣島の空港建設をストップさせた ②短時間労働者の保険制度加入 ③児童扶養手当を十八歳の三月三十一日まで延長 ④育児休業法の所得保障 ⑤国会会でのILO156号条約の批准 ⑥パート労働権を確保する法律を提起 ⑦働く女性が自分の年金の半分、夫の年金の半分を選択できる法律を作った ⑧災害時に障害者、高齢者、乳児、子供

を持つ母親に重点を置く法改正の要求

⑨ 在日朝鮮人学校への国の助成金決定

⑩ ODA予算を十五億円から二十億円に。

以上法改正したもの、予算化したものだけに絞って申しあげました。女性が政治に出ることの意味は、すべての政策決定が男性優位、中心になっている現状打破の意味があります。慰安婦問題、セクシャルハラスメント等については男性達はなぜこんなちっぽけな問題に女は取り組むのかという意識でしたが、今や世界の女性の人権問題の先駆的役割を進めています。

堂本暁子 一九八九年に与野党が参議院で逆転した選挙の時、土井たか子さんが二十人女性を擁立して十九人が当選しました。これがどれ程大きなことだったかを知って欲しいと思います。議員になって一番気がついたことは、政治はもとより、日本の経済、社会全体が男性主導の構造になっていることでした。

地球が環境の危機にひんしているこの時期こそ、女性の視点で変えなければいけない。人間がどうすれば幸せになれる



川橋幸子さん

日下部禰代子さん

かという根幹の部分を変えなければいけないのです。私が一年間言い続けてきたことは地方分権が大事という点。この社会を変えられるのは①女性 ②若もの ③年齢に関係なく頭と心にしわのない男性というところでしょうか。

円より子 段差だらけの街を、つえや車イス、バギーを押す人も安心して歩ける街づくりをするため、何人かの人達と一緒に議員立法を提出しています。女性や弱者の目から見た法律づくり、街づくり制度を手がけていくうちに、国会議員と違うのは、有償のボランティアのような気がしています。女性の議員を増やすこ

とももちろんですが、日本の国会という

ところは官僚がつくった法律を通すだけです。管理職担当の女性官僚がもつともっと増えて欲しい。しかし、実際には女性が占める割合は〇・七パーセントというのが実情です。(加藤真理記)

〈第二部〉

立候補者大集合

「私は地域をこう変える、
こう変えた、
私がなればこう変わる」

一分スピーチ出演者 安久ミヨ子(目黒区議立候補予定者) / 入部香代子(豊中市議) / 加藤巴江(小田原市議) / 富沢よし子(杉並区議) / 樋口恵子(町田市議) / 村岡民子(市川市議立候補予定者) / むた陽子(板橋区議) / 門間ひで子(羽村市議立候補予定者) / 安岡厚子(田無市議立候補予定者) / 佐藤かつ代(花巻市議) / 甲斐廣子(多治見市議) / 黒柳敏子(湯沢町議)

コメンテーター 山井和則

コーディネーター 沖藤典子

樋口恵子

四月に行われる統一地方選は、与野党相乗り、相乱れの大混線。これでは一般の人々の政治離れは当然だが、こと地方自治体で行われているゴールドプラン策定に直接関わっていくのが地方議員たちである。そこで、当会では会員の議員さんをはじめ、立候補予定者の方々に登場していただいて、高齢者の問題を中心に地方の政治をどう変えていくのか、熱いひとことを語っていただいた。以下、要旨のみを簡単にご報告したい。

安久「私はもう黙ってはいられない。看護婦をしていた経験を生かし、二階から目薬をさし靴の裏から足をかくような男中心のバラマキ福祉政策を、女の生の声を生かした医療と福祉政策に変えたいと思ひ、決意しました」

入部「前回、女性初の障害者議員として当選し、マスコミ等にも取り上げられましたが、今回はもっともって障害者の議

席を増やし、障害者の生の声を生かすために、またがんばっていききたいと思ひます」

加藤「小田原初の女性議員として当選して、十六年間、私はたった一人の女性議員でしたが、今回は後輩に道を譲り、引退することになりました。これから立候補する人へは、良い仲間づくり、政策づくりをおすすめしたいと思います。議員をしながら、民間のホームヘルプ協会や悩みのダイヤル相談作りなどやってきましたが、今後も活動を続けていきたいと思ひています」

富沢「この四年間、私たちがもっている常識とかけ離れた世界でよく我慢してやってこられたなと思ひています。議会では、男女平等と福祉政策の二点をいいつけ、そして、情報の流れを逆流させるようにしました」

樋口「私は、二番めの障害者議員です。福祉の町田といわれるこの街でも、障害者の存在していない福祉なのです。ですから、障害をもつ立場からの政策立案と、女性の自立をめざしていくつもりです」



“私がなればこう変わる”と熱く語る、立候補者

村岡「いま二十九歳です。父の家業を手伝っていたために時間があひ、目の見えない人の介助ヘルパーをしていたときに感じるこゝろがありました。高齢者の問題にしても同じで、これを解決するのは政治のシステムだ。頭にシワのない、若い私たちがこそ政治を変えられるのだと、仲間たちとともに決意しました」

むた「地域福祉計画のメンバーとして意見書を提出、高齢者住宅づくり等に力を注いできました。今後は、ほけても楽しく生き生きとをテーマに掲げて、住宅と医療を保障していくことに尽力をあげて



一生けん命発言する立候補者たち

いきます」

門間 「羽村市は、常勤のヘルパーさんが一人もいません。数年前から地域の中で医療の問題に取り組んできましたが、無所属女性市議として今回はじめて立候補し、ヘルパーさんを一人でも増やすようがんばるつもりです」

安岡 「市民派の議員を増やす運動を今まで続けてきましたが、今回は私が立候補

することになりました。田無市は、現在女性議員が五人いてなかなか激戦地域ですが、高齢者問題では「安全率一〇〇パーセント、元氣です」、をキャッチフレーズにしてがんばっています」

佐藤 「高齢化社会に対する覚悟、安全な職業を提供する覚悟、子供の権利を守る覚悟、女性を開眼させる覚悟、この四つの覚悟をして議員をやってきました。ぜひ皆様も、覚悟した議員を支えていただきたいのです」

甲斐 「名古屋へ通勤するためのベッドタウンと地場産業の街ですが、女性にとってもなかなかの激戦区です。まっ端の人の声が通らない、日本の民主主義はどうなってしまったのかと義憤を感じ、今回立候補しました」

(いま女性議員に望むこと) 山井和則

「お話を聞いていて、女性議員の方々は、やりたい政策がきちんとしているなと痛感しました。私は、二年間スウェーデンへ留学しましたが、そのスウェーデンで福祉に関していちばん詳しいのが地方議員です。そして、地方分権が確立してい

ます。同時に、地方議会へ大量の女性議員が進出し、福祉の分野でがんばっている。これがスウェーデンの良さだと私は思います。日本では、現場で働いているのは女性なのにトップは男性が多いのです。

高齢者福祉の充実のために、①二十四時間巡回ホームヘルプ、②グループホーム、③財源は公的介護保険、ぜひこれらを掲げて、女性が地方議会へ進出していただきたいと願っています」

(望月幸代記)



田中寿美子さんへ

この三月十五日、田中寿美子先生が札幌市で、ご家族に見守られて逝去されました。田中寿美子先生は、すべての分野を網羅する女性問題の先駆者であり、女性として政治家として参議院議員を三期つとめ、初めて社会党副委員長となった方であることはよく知られています。

党派性を超えて、市民運動、女性運動と連帯したことも大きな業績の一つです。当会の活動には、スタート当初から励ましと助言をいただき、理事として惜しみないご協力を賜りました。とくに重いリウマチを病まれた経験から、リハビリ



機能のある中間施設の必要を痛感し、当会を事務局に、「中間施設を考える会」を組織し、民間の専門家、有識者グループとして政策提言する原動力の役を果たされました。それは現在の「老人保健施設」のあり方に生かされています。

今でも語り草になるほど人気が高かった、加藤シヅエさん、住井すすさんたち出演の「風に向かって生きた女たち」(一九八五年シンポ)の企画。これも田中寿美子先生の「介護問題ばかりでなく、創造的に長寿を生きる明るい面もみんな知りたいのよ」というご助言からスタートしたものでした。

老いて体は病みながらも、いつも心は健やかに、自立をめざして住宅改造にも取り組まれました。また、闘病の中からも二冊の著書を送り出し、その本をできるだけ、かわりのある人々に送り届ける心くばりは、深い感銘を受けました。



記念すべき第1回のシンポジウムで、声明文をよみあげる田中寿美子先生

「在宅といっても、これも大へんなことで」と晩年に言われたことが印象に残っています。たくさんの精神的遺産と宿題を田中先生は当会に贈ってくださいました。その宿題をしっかりと受けつぎ、回答をだしていくことが、女性問題、高齢化問題の先駆者としての田中寿美子先生の霊に報いる最高の道であろうと思います。

(代表 樋口恵子)



ボランティア事業の一貫として
特養ホームのお年寄りと

何とか「安心老後」經由 「大往生」行、片道切符 を手にしたい。

魅力ある高齢社会をつくる香川の会
会長 野田 法子

「関西には地震はない」と親から聞き娘や息子にもそう言ってきたので、もはや「ない」と信じていたのが事実。

かつて「住みよいまちづくり」のために県民の意識調査をしたが、「あなたは、いま住む町に永住したいと思えますか」の間に「そう思う」と答えたのは七二%。「住みやすいか」の間には七四%が「はい」と答えていた。住みやすさの三本柱は、①公害が少なく健康に良い、②災害や地震の心配がない、③自然環境に恵まれている、で②がいわゆる「安全神話」。防災意識の欠如もむべなるかなです。

今回の阪神大震災はひと事ではなく、これを教訓に「高齢者の防災対策」と「防災に強いまちづくり」が急務となり、新たな活動を考えています。

当会活動は、月一回でセミナー、ボランティア事業の他、共催事業も多く、「高齢社会をよくする女性の会」第八回シンポジウム大会では「香川老人問題研究会」

とともに参画。「拓こう、いのち輝くエイジングライフ」のテーマの下で展開された熱気は今も活動に脈打っています。

昨年十一月二十三日には樋口代表にご来高いただき、高松市主催の「たかまつ女性のつどい」で国際家族年に合わせてのご講演会を開催。国連が提唱している「国際家族年」の理念と趣旨を正確に詳しく聴く機会を得て感謝しています。

家族を血縁の枠に止めず、対等な関係で結ばれた個の集まりを家族と考える時代の到来、国が家族の理想型をつくってはならないこと等から話は国の内外に及び、あっという間に終了時刻。壇上とは別の時間が流れたような一時で、元気になれた聴衆とお疲れの代表は裏腹でした。当会の設立は昭和五十九年二月。やること、やりたいことは増えるばかりだが、元気なうちに何とか「安心老後」經由「大往生」行、片道切符を手にしたいものです。

◆新グループ紹介◆ 隠岐・高齢社会をよくする会（合歓の会）

美しい隠岐の島を、最後まで安心して生活できる島にするために

報告 山代朋子

「隠岐は絵の島、花の島」と民謡に歌われる、美しい長寿の島から仲間入りの

ごあいさつをいたします。

昨年夏、私たちの会「隠岐・高齢社会をよくする会」が発足いたしました。数年前より同じ島根県の石見や松江の「高齢社会をよくする会」の活動に触発され、長寿の島といわれる隠岐こそ皆で考え、行動すべきだと思いは盛り上がり時が熟して九人の仲間が集まり会発足の運びとなりました。会の呼称は「合歓の会」としました。現在、会員は二十一名です。

「隠岐山路行く先々に合歓の花」隠岐の夏を彩る合歓の花の美しさはたとえようがありません。野性でありながら人里近くに好んで成長し、強い木である筈なのに移植に弱い合歓、樹それぞれに濃淡の違うピンクの花を咲かせる合歓の花にちなんで全員一致で名付けたものです。会の発足と第一回の学習会を知らせる淡い

ピンクのチラシで私たちの活動は始まりました。

「安心して老いることのできる地域をめざして」「私達の「これから」を考える」という手作りの学習会には五十名が参加。講師は地方紙の女性記者・弥重節子さん、彼女は石見高齢社会をよくする会の発足委員の一人でもあり、現在は山陰の小都市で支局長として活躍中ですが、早くに北欧の実情を視察するなど高齢者福祉問題を先取りし、紙面に取り上げてきていました。松江の「ぶどうの会」の代表も応援に駆け付けてくれました。老いを、福祉を自分のこととして考える、出席者の心が一つになったひとときでした。お祝いに行政の方からも励ましの言葉をいただき順調な滑り出しです。

その後、会員が今までに携わった高齢者福祉への取り組みや、海外研修の報告を聞き合ったりして手探りで歩んでいま

す。今年は、町役場の保健福祉課長に島の福祉の現状やこれからの計画を聞く会を持ちました。これからも継続して話し合いを持ちながら、島の福祉行政に生の声を取り入れてもらいたいと思っています。

かつては島の中で自給自足ができた隠岐も交通の便が良くなり、商品の流通機構が変わり島民の働く場は減る一方です。美しい隠岐をふるさととして皆誇りにしています。島には老親だけが残される例も多く、現実には深刻です。

島ならではの良さと厳しさをふまえて、最後まで安心して生活できる島にするためにどうしたらいいのか？ 私達に何ができるのか？ 着実に学んでいきたい。そして回りに働き掛けていきたいと願っています。



『終末期医療への願い』

—がん患者になって知った死の現実—

宮尾茂子著

(ミネルヴァ書房 一五〇〇円)

私は、十年前に都立の病院で乳がんの手術をし、今日までに三回の再発をいたしました。この年月は、多くの友人を幽界に送った年月でもありました。

この闘病生活中に、終末期を安らかに生きるにはどうすればよいかを、自分なりに考え続けてまいりました。

私の目には、いまの終末期医療の現状は、かなり立ち遅れているようにみえます。各所で、がん、老人問題のボランティアをしながら、患者として医療の現実、患者及びご家族の苦しみを見つめてまいりました。

ことにホスピスについては「安らかに生きる」ところとして多くの医療者に取材させていただきました。一般病院の医療者、そしてがん患者、ご家族の声を聞かせていただきました。それをまとめたのがこの本です。

がん、そして老いの終末期を安らかに生きることの願いを込めた一冊です。

『老後を10倍楽しむ法』

高嶋信夫著

伝文社 一二〇〇円(送料二七〇円)

豊かな高年生活に欠かせない大切なものはお金と心。精神的、経済的にゼツタイ役に立つ具体情報満載の指南書です。

☆相続税を払わないために

☆資産デフレで老後が危ない

☆第三の年金でいきいき人生

☆経済変化にどう対応するか

☆タイミングで勝負するお金持ち

☆新しいライフスタイル、その他

筆者は講演、テレビで活躍中の評論家、資産運用コンサルタントで、体験に裏打ちされた実践論には定評があります。

人生三万日、七〇万時間の使い方、今なら間に合うビッグな老後に役立ててください。

全国の主要書店、または伝文社へ

郵便振替口座 01070011843

TEL 075-956-1388

『素敵な死にじたく』

井上治代著

(KKベストセラーズ 一二〇〇円)

いつか夫も子供も去っていく。この人生晩年の「死別シングル時代」をどう生きるか。「夫を送る」ということ、「一人で生きる」ということを具体的に探り、老後や死後をいかに託すか、最新情報をお伝えします。例えば、入退院を繰り返すようになった五〇代の単身女性が、自分のこともやっとなつて、家族同様にかわいがってきた犬を、涙を飲んで安楽死させた。ちぎれるような悲しみだったに違いない。ところが同じ五〇代の単身女性には「自分が死んだら、この子(犬)はどうなってしまうのだろう」と悩んだあげく、ペットに遺産をつけて後見人に託すという生前契約を結んだ。それも自分の葬儀や死後の後片づけと一緒に。情報を知ると知らないでは大違い。こんなことがあって私は「書かなければ」と思った。その他、長男の嫁と葬送、女と介護、変わる家族、シングルスの死にじたく、死後の自立、娘だけの家の墓、遺族年金、死後の手続き等、具体例と情報いっぱい。発売一か月余で重版の反響！

「元気の素」の 波及力に期待

せり さわ もとこ
芹 沢 茂 登 子

(電話相談員)



高齢社会をよくする女性の会のシンポジウムに初めて参加した友達から、翌日「お先真っ暗な気持ちだったけれど、元気が出てきた。また『元気の素』を貰いに行くわ」と弾んだ声で電話がかかってきた。当会の活動はどうやら元気の素になっっているようである。

その渦の中に身を置いて約十年、もつとも元気であらねばならない筈の私は、この頃どうも元気がない。六十歳過ぎて、急性腎炎からネフローゼ症候群になり、四カ月入院、退院後もずっと副腎皮質ホルモンを飲み続けているためか、感染しやすく、すぐ風邪をひき発熱してしまふ。その上、肩こりと頭痛に悩み、目は翼状

片で白目に脂肪がたまりうっとうしく、耳は滲出性中耳炎のくり返して、気分が晴れない。

鬱々とした気分のままに『心と治癒力』（ビル・モイヤーズ著、草思社刊）という本を読んだら、「抑鬱した状態が続くと身体の免疫力が落ち、病気が悪化したり、感染しやすくなる」とあった。それから立てつづけに心と身体のみカニズムを解く本数冊を読むと同じ趣旨であり、心の身体に及ぼす影響の多いことが科学的に解明されている。年と共に喪失感を味わうことが多い。体力が衰えるというような身体の面だけでなく、お連れ合いや長年の友を亡くすという心理的な喪失感も

あろう。しかし、こうした心身両面の喪

失感で、鬱々としていたのではますます気分が減入り、かの本に書いてあるように免疫力も落ちて病いを招くことになる。

冒頭の『元気の素』を貰ったと言った友達は、その後地域で高齢者の問題に積極的な活動を始めている。少し元気をなくしていた私も再び会の活動を通じて、『元

気の素』を仕入れよう。そして、毎月の例会や緊急シンポジウム、六月の総会、九月金沢シンポジウムに集まる方々が、また『元気の素』を仕入れてさらに元気になり、各地に帰って活動される、その全国的な『元気の素』波及力に心から期待したい。

(今回は神馬美佐子さんをお願いします)

略歴

一九三〇年東京生まれ。早稲田大学第一文学部卒。旺文社、東京労音事務局、河出書房などに勤めた後、一九七一年ダイヤル・サービス株赤ちゃん110番開設に参加、以来熟年110番、健康相談など多くの電話相談にたずさわり、現在に至っている。
当会運営委員。

■ブックレット生きる②〇

『女性の参画でひらくゆたかな老い』

—— 高齢者保健福祉計画策定委員会男女比率調査から ——

高齢社会をよくする女性の会・樋口恵子編

(アドバンテージサーバー 五〇〇円)

高齢社会をよくする女性の会では、全国各市町村の高齢者保健福祉計画策定委員会の女性委員比率調査を実施し、昨年四月八日に調査結果の報告討論会を行いました。このたびその記録がまとめられ、ブックレットとして出版されました。

樋口恵子代表は冒頭で「介護からひろがるゆたかなデモクラシー」と題して、なぜ女性の参画が必要かをわかりやすく説明しています。女性比率調査の目的は、高齢社会の介護のあり方を決める計画に、圧倒的な比重で介護を担う女性たちがどれぐらい参画しているか、その現状を明らかにすることですが、いったい何パーセントが女性委員だったでしょうか。本書では当日の報告にそって女性参画の実態が解説されているほか、高齢者福

祉は女性の問題であると熱心に語る出席者の発言や、自治体とのやりとりで苦労したエピソードなども収録されています。さらに巻末には調査の結果を集計した表が掲載され、詳細なデータを知ることができます。

「高齢者保健福祉計画は二〇〇〇年までのあいだに見直しの機会があります。一人でも多くの女性がこのことに関心をもってくださいませう」(本書はしがきより)、ご注文をお待ちいたします。事務局にお申し込みの場合は、二冊まで二四〇円、五冊まで三二〇円、九冊まで三八〇円の送料ご負担となります。十冊以上お申し込みの場合、送料は当会で負担いたします。また一般の書店でもお求めになれますので、ぜひご利用ください。

事務局だより

♥ 新年度最初の会報と一緒に、総会のご案内と新年度年会費の振込用紙(前納の方は除く)を送らせていただきます。総会のご出欠ハガキは、お早目にご返送ください。また会費納入についてご不明の点は、事務局までご連絡ください。

♥ オープンハウスは五月二十二日(月)十一時~四時。事務局で行ないます。

♥ 阪神大震災義援金現在高は、四月一七日「震災シンポ」での募金額三三、五〇〇円を含めて、一七九、九五二円になりました。

総会準備のため五月の勉強会はありませんが、その分、総会記念の「三人衆の珍道中ドイツ報告」にご期待ください。ブックレット『女性の参画でひらくゆたかな老い』は、大好評発売中です。資料としてもぜひ一冊お求めください。

(新井優久子)

♥ お待たせしました! ♥
『男の大往生・女の大後始末』発売中!
(定価八五〇円)。マリオンあの熱気をそのまんま盛り込んで、初版二万部。目標、全部売る!